

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

課題番号	20224016	研究期間	平成20年度～平成22年度
研究課題名	長大測線統合的地震探査による中部日本地殻構造とアクティブテクトニクスの解明	研究代表者 (所属・職)	伊藤 谷生（千葉大学・大学院理学研究科・教授）

【平成22年度 研究進捗評価結果】

評価	評価基準	
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(意見等)

本研究は、複数の長大基線に沿って高分解能で深部までの構造断面を得て、中部日本におけるテクトニクスを明らかにしようとするものである。予算の圧縮や、予定した測線である林道の不通などにより、当初計画よりかなり測線長が短縮されているが、計画された深部までの断面を得ていることは評価できる。そしてこれらの結果から、地表で観察されるアクティブテクトニクスが、深部でのフィリピン海プレートの運動や形状に支配されていることなどを明らかにしつつあり、研究は概ね順調である。

【平成23年度 検証結果】

検証結果	研究進捗評価結果どおりの研究成果が達成された。
A	<p>複数の長大基線に沿って高分解能で深部までの構造断面を得て、中部日本におけるテクトニクスを明らかにするという当初の目的は達成された。得られた膨大なデータに基づくイメージングから、地表で観察されるアクティブテクトニクスは、深部でのフィリピン海プレートの形状と運動、そして地殻内の地質構造に強く支配されていることを明らかにした。</p> <p>なお、この研究で得られたデータは膨大であり、さらなる解析を行えば、当初の想定以上の新知見が得られることは確実である。今後とも論文発表による研究成果の社会的周知を期待する。</p>